

令和4年度 第2回中堅・中小企業等のDX促進に向けた検討会 議事要旨

1. 会議の概要

日時：令和5年1月31日（火） 13時00分～15時00分

場所：WEB開催

2. 議事要旨

(1) 討議

○ 手引き（改訂案）に関すること

- 手引きの改訂案はデジタル人材と伴走支援の部分が反映されており、この方向性で改訂を進めていきたい。また、事例集の追加はDXセクション2022選定企業と伴走支援事例で異論はないが、メーカーの事例に偏っていると感じており、昨年度の実例と合わせて様々な業種の事例を紹介するのが良いと思っている。いつの時点の情報なのか明示するなど見せ方を工夫する必要がある。
- 冒頭の事例A～Cの3社については掲載後のアップデートが検討されている。このように、継続して進化していることを伝えることが非常に大事。他の事例集についても、進化する部分を取り上げたほうが良いと感じている。また、それぞれの事例のDXの取組について何がアピールポイントなのか、キャッチーなサブタイトルをつけるのはどうか。
- サブタイトルで会社のDXの取組の特徴をまとめることについて賛成である。外部の視点やデジタル人材の確保は非常に大事なポイントになると考えている。事例集について、メーカーに偏ってしまうと、手引きの読み手がメーカー以外の場合、参考にならないため読んでもらえない可能性がある。
- DXセクション2022選定企業の経営者からのメッセージを掲載することで、より多くの企業からDXの取組のきっかけやエピソードを紹介することができ、読み手にとってヒントになると考える。
- 手引きの認知度がまだ足りない。また、一部の業種では中堅・中小企業よりも大企業のほうがDXの推進が遅れていると実感しており、中堅・中小企業がDXの牽引役であることを伝えていくことも考えられる。
- デジタルガバナンス・コードが理論的な構成になっているため、手引きについては、もっとDXに取り組まなければならない危機感が伝わるような構成になるのが望ましい。
- 手引きの存在を認知させていく必要がある。それから、関心をもって中身を見ていただくために、事例企業それぞれにキャッチフレーズをつけることやビジュアルで示す部分を増やすと良い。
- 経営者の理念とパーパスがあつて、実現したい未来＝ビジョンがあつて、DXの取組が手段としてある、というところに読者の理解が及んでいないのはいないか。
- 理念やパーパスがないと、単なるIT導入に終わってしまう。DXと旧来のIT導入と

異なるのは革新的な取組で変革していくことにつながっていくかどうかということである。

- 最初から理念やパーパスのような言葉を投げかけるより、モノづくりの設計図のように順を追って説明していくことで、うまく理念やパーパスに繋がるような伝え方が必要なのではないか。
- 顧客に提供できる当社の価値は何か、それを5年先、10年先の環境変化の中で、変えていかないと発展できないことを伝えることが出発点である。理念やパーパスがいかに重要であるかをどうやって伝えていくかは、委員の中で真剣に討議する必要がある。
- パーパスマネジメントとDXの関係性を気付かせてくれるような伴走支援が必要になってくるのではないか。
- 経営者自らがマインドセットしていかなければならない。一方、パーパスマネジメントを活字で読んでも、腹落ちしにくい。例えば、サプライチェーンにおけるDXの取組を実務として対応していくことで、パーパスマネジメントの必要性を実感してもらうケースもあるのではないか。
- DXの取組のために、パーパスや理念を作らなければならぬと勘違いしている自治体が多い。実際は、基本計画や基本構想は存在しており、目指すべき姿のためいかにデジタル技術を使っていくのかを考えていけば良いのだが、新たに基本構想を作ろうとするケースがある。
- 一定規模の中小企業では、基本的に経営理念はある。しかしながら、経営理念を達成するに際してDXがどう繋がっていくのか認識することが経営者にとってハードルが高いのではないか。そのため、伴走支援者・企業が当該事項を意識して支援していくことが必要ではないか。
- 経営者と伴走者の間で対話することが大事である。対話の中で、パーパスやビジョンの必要性が経営者に伝わる。
- DXは高いハードルである。しかしながら、これを実現していかないと日本の経済発展はない。その中で、安易にDXのハードルを低くするのではなく、経営者に対して危機感を持たせる強いメッセージを発信していくことで変革を促していくことが必要なのではないか。

○ DXセレクション2023の公表に関すること

- DXセレクションの表彰式の実施にあたって、リアル会場とWeb配信のハイブリッド開催をすることとし、一般の方にも視聴いただける形式で検討を進める。
- 表彰式では、審査委員長から選定事業者の発表及び全体講評をいただくとともに、優良事業者から取組概要に関する発表を行ってもらうこととした。
- 表彰式のプログラムは二部構成とし、第二部においてパネルディスカッションを実施する。

(2) 今後の進め方

- 手引きに関しては、本日いただいた意見を踏まえて、第3回検討会で再度内容をご確認いただきたい。
- 第3回検討会は3月1日を予定している。

お問合せ先

商務情報政策局 情報技術利用促進課

電話：03 - 3501 - 2646